

伊勢志摩区域連携型

認知症疾患医療センター長賞

「『ばあばはだいじょうぶ』を読んで」

おくの あいり

有緝小学校 三年 奥野 愛理

このお話は、主人公のつばさという男の子のおばあちゃんが今まで、できていた事が、できなくなってしまうたり、一人で家に帰ってこられなくなったりだんだんと、ようすがかわっていく内ようのお話です。

にんちしょうは、わすれてしまうびょう気です。びょう気だから、だれのせいでもないと思います。もし、わたしのおばあちゃんににんちしょうになってもわたしは、かわらずおばあちゃんに話をしたり、やさしくしたりしようと思います。なぜかというと、わたしが小さい時にお母さんがびょう気になってしまって、わたしのお世話をできなくなってしまう時におばあちゃんがお母さんのかわりになってわたしのお世話をずっとしてくれました。だか

ら今度はわたしがおばあちゃんをお世話する番だと思いました。

にんちしようについて、正しい事をまだ知らない人がたくさんいると思います。だからみんながもつとにんちしようについて、学んで正しく知ってお年よりにやさしくしてあげられる世の中になっていけるようになればいいなと思います。そのために、わたしもまわりの人たちに正しく理かいしてもらえるように伝えていきたいです。もしいつかわたしのおばあちゃんがかわつてしまう日が来ても、わたしはかわりません。そして、「ばあばはだいじょうぶ」とわたしも言ってあげようと思います。